



■シナリオ概要

[対応]：クトゥルフ神話 TRPG（6 版）、2010,2015（7 版改変は自由にどうぞ）

[人数]：1 人

[舞台]：現代日本（8 月）/行動制限がかかるややシティ＆クローズド

[時間]：どどんとふ&ディスコード使用 RP テキスト 3 時間半～

[技能技能]：無し（しいていうなら基本探索）

[ロスト率]：低～中

[備考]：14～19 歳までの探索者限定。

バイオレンスサマーバケーションシナリオです。

【あらすじ】

家路を急ぐあなたは突然背後から何者かに殴られ意識を失う。

次に目を覚ました時、あなたは見知らぬ部屋にいた。

ガムテープで手足を拘束され、身動きが上手く取れない。

机にうつぶせになって眠っている男。

端が折り曲げられた旅行雑誌。

彼は言う「一緒に、海に行ってほしい。」

【目次】

P2～3：KP 用概要

P4～27：シナリオ本編

P28：あとがき

→次ページより KP 用概要

【KP 用概要】

■シナリオ概要

七鳥 六生（ななとり むつお（男性 NPC）は、3 か月前の 5 月にサークルの合宿で「小夜鳴島（さよなきじま）」を訪れた。有人島である「小夜鳴島」は海の美しさと自然を楽しめるとして夏のバカンスの名所として有名な場所だ。

七鳥は小夜鳴島の森を散策中、石造りの廃墟を発見する。そしてその中で彼は「あの世からの漁夫/グロス=ゴールカ」の偶像を見てしまった。気味が悪くなった彼はその場から足早に立ち去ったが、その日からあの世からの漁夫に目をつけられ、悪夢を見始めるようになってしまう。

悪夢を止める方法を探していた彼はあの日見た鳥の記述がみられる一冊の本（魔術書の種類）を発見するが、毎晩の悪夢により正気をほぼ失っており、冒険的な魔術書の解釈が決め手となり発狂。これまで我慢してきた分もあわせて暴力癖/自殺癖/幻覚（幻聴）を抱えることとなった。またストレスによる睡眠障害（過眠症）を患っている。

そんな彼と運悪く出会ってしまったのが今回の探索者だ。幻覚に苛まれながら歩いていた時、探索者が「助けてあげる」と言ったように思えたのだ（幻聴である）。彼は助かるにはもう自殺するしかないと思っているため探索者を巻き込んで死ぬつもりだ。そして死に場所は美しい海のある小夜鳴島と決めている。

探索者は、彼のレポートや魔術書を読み解き、小夜鳴島の廃墟にあるあの世からの漁夫の偶像を破壊する必要がある。偶像を破壊しない限り、あの世からの漁夫はあなたにも憑りつき、七鳥は探索者を殴ってでも自殺に巻き込むだろう。

■NPC

七鳥 六生（ななとり むつお） 21 歳 大学生

普通の大学生。民俗学を専攻している。

シーズンよりは少し安い時期にサークル合宿で小夜鳴島へと訪れた結果あの世からの漁夫に憑りつかれてしまった。

最近は大学を休んで家に引きこもっている。

暴力癖、自殺癖、幻覚（幻聴）、睡眠障害に苛まれている。

探索者のことは知らないがなんとなく助けてくれる（どう考えても幻聴である）と言ってくれた気がしたので、一人で死ぬのは寂しいという理由から自殺に巻き込むことにした。

自分を助けてくれると言ったのに、逃げたりすると暴力をふるってくる。

正気度は 10 ぐらいしか残っていない。

運よくキャンセルされた小夜鳴島のリゾートホテルの一室を借りることが出来ていたので、探索者を一緒に海に連れていくことにした。

<ステータス>

STR:13 CON:13 POW:9 DEX:10 APP:12

SIZ:12 INT:16 EDU:14

HP:13

■舞台

小夜鳴島（さよなきじま）

7.84 平方キロメートルの小さな島。リゾート開発されている。

海が美しくバカンスとして有名。また自然も多く残っている。

過去に「あの世からの漁夫/グロス＝ゴールカ」を信仰していた人々がひっそりと森で暮らしていたらしく、その名残として廃墟と偶像が残されていた。

島民も観光客もまったく気づかない場所にある廃墟に迷い込んでしまった時点で七鳥は運が悪い。

廃墟以外はいたって普通の島であり、8 月はシーズン真っ只中。

観光客も多くいる。ホテルは「はいがぷす」1 つ。

※モデルは「小浜島」です。

→次ページよりシナリオ本編

■シナリオ本編(監禁編)

[導入]

(描写例)

夕暮れ時、あなたはいつものように家に向かって歩いていた。
人通りの無い道を歩く。道路に伸びる影は自分一つだ。
しかし、ふと気づけば影が一つ増えていた。背後から誰かが来たようだ。
気づいた時にはもう遅かった。
ガンッという強い衝撃と痛みにあなたは意識を手放すことになる。

あなたは目を覚ます。電気がついていないため目を開けても視界は真っ暗だ。
身動きをとろうとして、自分の体が上手く動かないことに気づく。
口に何かが張られ、手足を縛られているようだ。
一体誰が何のために。 SANC(0/1)

暫くすれば暗い中でもぞもぞと何かが動く音がし、立ち上がり部屋に電気をつけた。
あなたはその存在と目が合う。
あなたを無感情に見つめるのは若い男性だ。20代前半ぐらいだろうか。
彼はじっとあなたを見て、手元にあったテレビのリモコンであなたを殴りつけた。
電池が飛び出そうとお構いなしに彼はあなたを殴りつける。
リモコンを置いた彼のこぶしで殴りつけられたのを最後にあなたの意識は再び
途絶えた。

■[1日目]

(描写例)

再びあなたは覚醒する。頭も顔も痛む。体は同じように上手く動かない。
どうやらガムテープで手足を拘束されているらしい。
口にも同じようにガムテープが貼られているのだろう。
朝日の差し込む部屋はどこにでもあるアパートの一室といった感じだ。
壁時計を確認すれば9時だった。

部屋の扉が開く。そこには手にお盆を持った昨晚の男性が立っていた。
彼はお盆を机に置き、床に転がるあなたの元に近寄って口を塞いでいたガムテープを
外した。

<男性：セリフ例>

「昨晚は悪かった。どうしても起きがけはダメなんだ。あとで手当てをしよう。」

「君の名前を教えてもらえるかな。」

「お腹、空いてる？朝ごはんを作ってきたんだ。」

※手足の拘束は解いていないので、犬食いをするしかないが、
もしも男性に拘束を解いてほしいといった場合は【※ごはんを拒否した】の
処理を入れる。

※名前を教えなかった場合

男性は思いっきりあなたを殴る。

殴った後何事もなかったかのように再びあなたに訪ねる。

「名前、教えて？」

※ごはんを拒否した

男性はあなたの髪を掴み、そのままスープ皿やパンの載ったお盆へと叩きつけた。

「手が縛られているから、食べられないよな。ごめんな。」

「せっかく用意したから食べてほしい。」

彼はあなたの口をこじ開けると、パンをねじ込む。

※その他質問した場合

男性は一つも答えない。探索者の話を聞いてないように話を進める。

(ご飯後描写例)

朝食が終わると、彼はキッチンに食器を置きテレビをつける。

そして応急手当の道具をもって来てあなたの傷をととても丁寧に手当てし始めた。

絆創膏とシップをはり終わると、彼はガムテープの拘束を解き始める。

<男性セリフ例>

「でも、本当に昨日君が道を歩いていてくれて助かったよ。縛り付けてごめんね。

そうじゃないと俺は今よりもっと困っていたかもしれない。

毎日毎日つまらない日常を送ってつまらない授業を受けて

誰かが俺を見ているような恐怖と、みんな俺のことが嫌いだという

話を聞かなくてよかったんだ。

それもこれもキミという存在あってこそだよ。

あのおおきな黒い鳥もきみがきてから見なくなったんだ。

きみにも見えるだろう？あの視界の端にいる大きな鳥。
それがいないんだ。こんなにうれしいことはない。
こんなにうれしいことはないんだよ、それよりもきみは何が好き？
お昼はきみの好きなものを作ろうと思うんだ。
でもきっと冷蔵庫にきみのすきなものはないかもしれない
大きな鳥が全部食べてしまったからね。
いや、大きな鳥なんてものはないで俺が全部食べたんだったかな。
もうどうでもいいことか。

ねえきみはどうやって俺を助けてくれるって言うんだい？」

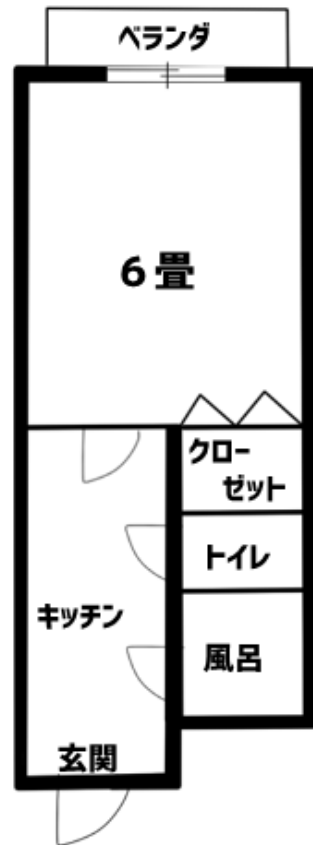
一息で言い終わった後、彼は糸が切れたかのように床に倒れ込み寝息を立てる。
あなたは突然の出来事に戸惑いを隠せない。 SANC(0/1)

※彼は過眠症かつ、突発的に睡眠に陥る症状も患っている。
発狂と睡眠障害の合わせ技で4時間は眠りに落ちてしまうのだ。
それによって彼は現実と夢の境界が酷くあいまいだ。

しかし探索者が逃げようとした場合はその限りではない。
探索者が逃げ出そうとした気配に気が付き、目を覚ます、
彼が目覚めた場合は、その時点でその日の家の探索は終了となる。
ここまでの描写が終われば、家の探索になる。

■七鳥宅探索

(間取り参考資料)



資料：七鳥宅間取り

至って普通の間取り。
大学生の一人暮らし。
アパートの4階。

目の前にスーパーがある。

(描写例)

一般的なアパートの一室といった感じだ。
机の上にはノートパソコンが置かれ、他には本棚、ベッド、テレビ、クローゼットがあるぐらいだ。

■机

テレビのリモコンや閉じられたノートパソコン、レポート用紙の束、旅行雑誌、家主のスマートフォンが置かれている。

【ノートパソコン】

ノートパソコンを開けばスリープ状態だったようで画面が立ち上がった。宿泊施設予約サイトのようだ。マイページの予約ページが表示されており、どうやら明後日（2日目に調べたのであれば明日）、小夜鳴島のリゾートホテル「はいがぷす」に一泊するらしい。

●《知識》もしくはパソコンを使って小夜鳴島を調べる

小夜鳴島は沖縄のあたりに位置する小さな島で、リゾート開発されている有人島である。海が美しくバカンスの名所として有名な場所である。サーフィンやダイビングも楽しめる。飛行場がないため定期船を利用して上陸する必要がある島だ。現在はシーズンの真っ只中であり、たった一つのリゾートホテルである「はいがぷす」に予約を取れたのはかなり運がいいことだということがわかる。

●ブラウザを一旦縮小してデスクトップを見る

デスクトップは無駄なアイコンが置かれていないが、一つだけ表に出ている文章ファイルがあった。ファイル名は「サークル合宿日程」
→ (01:サークル合宿日程 情報開示)

【レポート用紙の束】

分厚いレポート用紙の束。タイトルは「小夜鳴島における信仰」読むのにはかなり時間がかかりそうだ。あなたがレポートの束を調べるとそこから1枚の写真が滑り落ちる。そこには廃墟が映っていた。廃墟の中央にぽつんと黒い鳥のような生き物を象った像が置かれている。それを見た瞬間貴方の背中にゾワリとした悪寒が走る。何かが自分のことを

じっと見つめている。そんな錯覚に陥るがこの部屋には自分と、
この部屋の主である眠っている男性しかいない。 SANC(1/1d3)

- 《図書館》に成功することで通常慣れない用語や漢字により
3時間かかるものが2時間で読めるようになる。
→ (02:レポート用紙の束 情報開示)

(情報提示後描写例)
レポートは未完のようで最後になるにつれて誤字や脱字とりとめのない妄想などが
書き連ねられていく。最後のページにはびっしりと
「小夜鳴島にもう一度行ってもう一度行って死ななければでも
一人で死ぬのは怖い。でも死ななければ。」と書かれている。
狂気に染まったレポートを読んだ探索者は SANC(0/1d2)

【旅行雑誌】

端が折り曲げられた旅行雑誌だ。沖縄特集のようだ。

→ (03:旅行雑誌 情報開示)

【スマートフォン】

ロックがかかっているが、緊急連絡は出来そうだ。

●110 番にかける

警察が対応してくれる。

訴えれば警察は探索者の話を聞き、場所を特定し駆けつけてくれる。

しかし探索者には「平凡な見せかけの呪文」が掛けられている。

つまり警察は探索者を認識できないのだ。

そのため緊急連絡を使用した場合、七鳥の怒りを買うことになってしまう。

(イベント欄参照)

■本棚

本棚にはびっしりと民俗学関係の本が多く詰め込まれているが
その他にも教科書のようなものも並んでいる。大学生の本棚。といった感じだ。

●《図書館》

あなたは本棚から他と雰囲気が違う一冊の本を発見する。

タイトルははがれてしまい読めなくなっている。

中は英語で書かれており、この厚さから読むのには一苦労しそうだ。

●《英語》、持っていない場合は《英語（EDU*2）》

成功：目を盗んで読めば大体1日ぐらいで読むことができそうだ。

失敗：なかなか難しい文法が多い。2日ぐらいかかりそうだ。

※1日＝明日の探索後に開示、2日＝明々後日の探索後に開示

→ (04:古い本 情報開示)

※こちらの内容について男性に聞くのであれば、

ふらふらとしながら本棚にあるルーズリーフを投げ渡してくれる。

助けてくれると言っているのだから、黒い鳥の情報は渡しておいてもいいと考えているため。

ただしこちらはPC、PLからのお願いがない限りは男性側から自主的に共有はしない。

■ベッド

枕や布団がぐちゃぐちゃになっている。

■テレビ

朝のニュース番組が終わり、今は情報番組に切り替わっている。

至って普通の内容が流れてくる。

■クローゼット

クローゼットを開くと中には洋服がつりさげられ、リュックが引っかかっていた。

●《目星》

リュックの中には筆記用具とルーズリーフ、学生証が入っていた。

学生証は付近の大学のもので彼はそこの学生らしい。

名前は「七鳥 六生（ななとり むつお）」

ルーズリーフには、黒い大きな鳥の落書きがされていた。

■玄関

玄関の扉は開けようと思えばいつでも開けられる状態だ。

（あけた場合はイベント表参照）

※外に出るときは一言言ってくれとは言いが、出すつもりはないので

もしも玄関を開けた場合は徹底的に殴りつけて気絶させよう！

■窓

あなたはそっと窓を見つめた。

4階ほどの高さの位置から見えるスーパーには見覚えがある。

どうやら自分はそんなに離れた場所につれてこられたわけではないようだ。

しかし4階という高さから、ここから逃げることは不可能であると考えられる。

※3か所探索、もしくはレポートや書籍の解読を始めれば彼は身じろぎして起き上がる。

その後彼は起き、夜はあなたを抱きしめて眠りにつくため探索は不可となる。

※夜ごとに探索者は黒い鳥に襲われる夢を見る。（イベント欄参照）

■2 日目

(描写例)

朝、同じように朝ごはんを提供される。

彼はご機嫌でクローゼットからトランクを取り出している。

<男性：セリフ>

「明日から1泊2日で旅行に行くんだ。」

「ああ、そうだ…当初の目的を忘れていた。」

「ねえ、●●（ちゃん/くん）俺と一緒に海に行かない？とてもきれいな場所なんだ。」

「ちゃんチケットも2枚取ったし、だから一緒に…」

そう言っているうちに彼は目を開いていられないようで眠りに落ちてしまう。

※2 日目は探索、及び解読していると彼が起き上がり一緒に海に行かどうかの答えを再び聞く。

素直にはいと言えれば彼は上機嫌になるが、いいえや断られると彼は再び暴力を振るう。暴力を振るい、はいと言うまで殴るのをやめないのだ。

※3 日目は朝から睡眠薬を飲まされ覚醒と睡眠を繰り返すため知らないうちに南の島へと連れていかれている。

◆シナリオ本編（小夜鳴島編）

■[3 日目]

（描写例）

あなたはぼんやりとした意識のまま電車とバスに揺られ、今は船に乗っている。
早朝に起きだした男性に手を引かれて移動していたことは覚えているが、
とても眠くて、そのまま意識を手放す。

次に目を覚ませば、そこは大きなベッドの上だった。
窓からはオーシャンビューが楽しめる。
白を基調とした爽やかで豪華な部屋では、トランクの中身を出している男性がいた。

現在時刻は朝の 11 時。
恐らく、自分は小夜鳴島へと連れてこられたのだろう。
外からは海を楽しむ観光客の声が聞こえてくる。

<男性 セリフ例>

「あ、起きた？なかなか目覚めないから大変だったんだよ。」
「さ、海岸歩きに行こうか。日差しが強いから麦わら帽子を買ってあげる。」

男性はあなたの手を取り歩き始める。
ホテルの売店であなたに麦わら帽子を買って再び手を繋いでホテルをあとにする。
目の前にはすぐに海が広がっていた。白い砂浜には観光客が何人かいる。
強い日差しはあるものの湿気が無いためかさほど暑くは感じられない。
そんななかあなたは上機嫌な男性と砂浜を歩く。

<男性 セリフ例>

「お昼は何を食べようか。お魚よりもお肉がおいしいんだ。」
「それと、この島は夜は星空が綺麗なんだ。」
「明日は流星群が見られるから、明日一緒に星を見よう。」
「沢山遊ぼう。」
「黒い鳥が、もう近くまで来ているんだ。」

男性に連れまわされ、現在時刻は 2 時。あなたたちはホテルに帰って来た。

部屋に付いた途端、彼は疲れたのか眠ってしまう。

あなたはこの二日間彼と過ごした結果、「4 時間は起きない」ことを知っている。

狭いとはいえこの島の中で一体自分は何ができるのだろうか。

ふとあなたの視界に大きな黒い鳥が横切った気がした。

窓を見てもそこには昼下がりの海岸があるばかりだ。

※上記の描写後、島内探索になる。

■島内探索

島内には

- ホテル/ショッピングモール
 - 図書館
 - 森
 - 海岸
 - 集落（島民の住んでいる場所）
- がある。

一つの探索に 1 時間かかることとする。

ただし森と集落は遠いため 2 時間かかる。

※4 時間を過ぎて行動していた場合は、七鳥が探索者の現在地にやってきて無理やりにでもホテルに連れて帰る。反抗した場合はその辺りの石などで殴りつけて気絶させて回収しよう。

■ホテル/ショッピングモール

(描写例)

ホテル「はいがぶす」に併設されたショッピングモールは観光客でにぎわっている。
日帰りの客もいるのだろう。

●《目星》

ショッピングモールのお土産売り場に「黒い鳥」のマスコットが売られていた。
その店は民芸品を売っている店のようで、老婆が店長のようだ。

老婆に黒い鳥の話聞いた場合：＜老婆の話＞

「この黒い鳥かい？うちの島の守り神だよ。」

「様々な災厄から守ってくれるんだ。ひとつどうだい？」

「怪我をしているみたいだね、可哀想に。よく効く軟膏を塗るかい？」

「この黒い鳥については私も良く知らないんだけどね。先祖が崇めていた神様らしいよ。」

「その辺の話は図書館に色々あると思うさ。」

■図書館

(描写例)

島民の利用する小さな図書館。蔵書数はかなり少なく島の歴史の本のほうが多いぐらいだ。

●《図書館》

島の民話を発見する。「黒い鳥と石の塔」

→ (05:黒い鳥と石の塔 情報開示)

◆石の塔の資料を探す場合 (※村長からの許可を得ることが必要となる)

カウンターに村長からの許可を得たことを踏まえて、

書庫の中の本を見たいとお願いすれば、司書さんは快く書庫を解放してくれる。

●《図書館》

放浪記「小夜鳴島」を発見する。

→ (06:放浪記 情報開示)

放浪記を読んだ上で現在の地図と照らし合わせ●《アイデア》に成功すると、

石ノ塔までのルートが理解できる。

■森

(描写例)

森は森林浴が楽しめるコースがしっかりと整備されているため、
こちらにも観光客がいる。
整備された道以外は木々が生い茂っており、やみくもに突っ込めば道に
迷ってしまうことは必至だ。

●《目星》

森の入り口には、草に隠れるようにして黒い鳥の像が置かれている。
古いため少し朽ちた感じはする。

■海岸

(描写例)

小夜鳴島一番の観光スポット。様々なアクティビティで遊ぶことができ、
海では泳いでいる人のほかにボートに乗っている人、ダイバーズスーツに
身を包んでいる人など思い思いに遊んでいる観光客の姿がある。

ふと遊んでいる人たちに紛れて黒い影がこちらをじっと見ているような気がした。
外は暑いというのに、背筋が冷える感覚がする。 SANC(0/1)

●《目星》

海岸沿いには連絡船の船着き場がある。
調べに行くのであれば、現在は繁忙期であることもあって便はかなりの数あるようだ。
しかし 20 時が最終便のようである。値段は片道 5000 円。

■集落

(描写例)

あなたは集落へとやって来た。家がぽつんぽつんとあるがそのどれにも屋根に黒い鳥の像が置かれていた。
島民はリゾート地ではなくここにきたあなたを珍しそうに見ている。

・ここでは、石の塔や黒い鳥についての話を調べるができる。
しかし黒い鳥に関しては昔話程度の話しか彼らも知らない。
悪夢等について聞いた場合は、自分たちは見ないが、
ひいおばあちゃんは見たことがあったという話を聞けたりする。
(現在は、石ノ塔の場所を誰も知らないため迷い込んで発狂するような人は居ないのだ。)

※石の塔への行き方、場所を知りたいというのであれば島民たちは
図書館内の書庫であればさらに詳しい過去の記録が残っているのではないかという話をしてくれる。
書庫は基本的に島民以外には解放されないが、勉強熱心な子が見たいというのであれば村長も許可を出す。許可を得たことを伝えれば司書に解放してもらえる。

■ イベント

※1日目～3、4日目で起こりうるイベント一覧。

● 警察に緊急連絡をする

(描写例)

ピンポン……インターホンの音がする。男性は首を傾げ玄関へと対応に向かった。
そこには警察が2人立っており、「監禁事件」の通報があったと話す。
彼は「それは大変ですね」と部屋に警察を招き入れた。
警察は隅々まで彼の部屋を探るが、彼以外の人物が居ないことを確認すると
イタズラでしょうか……といって去っていった。
警察が去った後、彼はあなたに向き直る。

「どうして警察に連絡なんてするの？」

彼はあなたをガンッと殴る。

「もう警察に連絡しないって約束できる？」

あなたははいと頷いただろうか、それともいいえと言っただろうか。

殴られ続けて麻痺する感覚の中あなたは気を失ってしまう。

※行動としてカウント、まだ探索の時間に余裕がある場合は
目を覚ますと男性が眠っているので行動ができる。

● 玄関の扉を開ける

(描写例)

あなたはそっと玄関の扉に手をかける。その瞬間に肩を掴まれた。
先ほどまで眠りに落ちていた彼が目を覚めたのだ。
彼はあなたの肩を強くつかみ、そのままキッチンのフローリングへと叩きつける。
「外出するときは一言欲しいな。心配になっちゃうから。」
彼はそのまま再びあなたをガムテープで縛りつけ、腹を蹴る。
「家から出るときは一言頂戴ね。」

※こちらは縛り付けられてしまうため、探索終了となる。

●悪夢

>>1 日目

あなたは夢を見る。目の前には黒い鳥が居た。

鳥はじっとあなたを見つめると鋭いくちばしであなたをついばんでいく。

身動きの取れないあなたはそのまま肉をちぎられ激痛にさいなまれる。

そしてそのまま息絶えたかと思うと…ふたたび黒い鳥の前に立たされていた。

黒い鳥はまたあなたをついばんでいく。

SANC(1/1d3+1)

>>2 日目

再びあなたは夢を見る。あなたの目の前にいる鳥は相変わらず鋭いくちばしを開けて小さく小さくあなたをついばんでいく。

何かに拘束されたかのように身動きのとれないあなたは啄まれ続ける。

目を潰され、喉を潰され、あなたの命は尽きる。

だというのにあなたは再び黒い鳥の前に立っていた。

SANC(1/1d3+1)

>>3 日目

あなたは夢を見る。何度も見た夢だ。

黒い鳥は今日もあなたをついばみ、命も飲み込んでいくのだろう。

けれどこれは夢だ。死ぬるわけではない。繰り返す現実と錯覚するほどの痛みをずっとあなたは受け続ける。黒い鳥はあなたをじっと見ている。

その黒い瞳で、何もかもを飲み込むかのように。

SANC(1/1d3+1)

●島民、観光客に助けを求める

(描写例)

あなたは自分のおかれている立場を他の人間に伝え、助けてもらうことにした。

見知らぬ男性に監禁され、暴行され、ここまで連れてこられたことを聞けば

誰であってもその異常性に恐怖し、すぐさま保護へと動き出すだろう。

あなたはそれにより、警察によって保護され自分の家へと帰ることができる。

→エンディング：C へ

●軟膏を塗ってもらった場合

条件：商業施設で軟膏を塗ってもらい、手当をしてもらった状態で七鳥の場に戻る

(描写例)

起きた彼は、あなたの顔を見てゆらりと近寄り殴りつける。

「その手当、俺がやったものじゃない」

「どこにいったんだ？」

「勝手に、どこにもいかないでくれ」

「はやく、俺を助けてくれ」

「頼むよ」

「黒い鳥がそこまで来ているんだ」

彼は狂気を孕んだ瞳で、泣きながらあなたに抱き着く。

そしてあなたを抱えたまま再び糸が切れたように眠りにつくのだった。

●その他定期的に反抗的だったり逃げ出そうとしたりした場合は

殴る蹴るなどの暴行を加えよう！

■クライマックス

※「石ノ塔へ向かう場合」と「向かわずに4日目の夜を迎える場合」とで処理が変わる。

◆石ノ塔へ向かう

(描写例)

あなたは残されたメモと地図とを比べながら石の塔へと向かう。

森をかき分け、道なき道を進む。

その間にも夕日は落ち星空が見えてきた。たどり着いたその先には、

たしかに廃墟があった。

あなたは一歩踏み出す。

そんなあなたの前に、大きな黒い鳥が現れた。

いや、鳥のような何かだ。鋭いくちばしをもち一本足のそれはおぞましい鳴き声をあげてあなたに敵意を向ける。

石の塔に近づけまいとしているようだ。

SANC(0/1d6)

(七鳥を連れてきていなかった場合)

あなたの背後からは、さらなる存在が姿を現す。あなたを追いかけてきた七鳥だ。

七鳥は黒い鳥の姿を見ると、泣き叫ぶ。そしてあなたにしがみつき

「助けてくれ」「死にたくないんだ」「死にたいけど死にたくないんだ」

とうわごとのようにつぶやく。

(連れてきていた場合)

七鳥は、鳥の姿を見て泣き叫ぶ。あなたにしがみつき

「助けてくれ」「あいつから俺を救ってくれ」「死にたいけど、死にたくないんだ！」

と呟く。

黒い鳥はあなたと七鳥に襲い掛かる。

[戦闘]

・黒い鳥（あの世からの漁夫）

データ：DEX16/耐久 21/鉤爪 35% 1d6/装甲：9P の鱗

●あの世からの漁夫は、あなたもしくは七鳥に対して攻撃を行う。

七鳥の耐久力は13。錯乱状態のため回避は行わない。

●石ノ塔の前には黒い鳥がいる。内部に侵入する場合は《DEX*5》に成功する必要がある。

ただし提案がある場合は、数値に補正等をつけることも可能。（例：七鳥を囷にする等）

◆石ノ塔に向かわずに4日目の夜を迎える。

（描写例）

今日で4日目の夜だ。今日は流星群が見られるらしく、
男性と共にあなたは星空の下を歩く。たしかに美しい星空が広がっていた。

男性があなたに何かを語り掛けようとした。しかしそれは叶わない。

あなたの目の前に突然現れた黒い影によって男性はいとも

簡単に引き裂かれてしまったからだ。

男性は呻きながら砂浜に倒れ伏す。血がどくどくと流れる。

大きな黒い鳥は「次はお前だ」と言わんばかりにおぞましい鳴き声をあげて
あなたへ鋭いくちばしを向けた。

SANC(0/1d6)

[戦闘]

・黒い鳥（あの世からの漁夫）

データ：DEX16/耐久 21/鉤爪 35% 1d6/装甲：9P の鱗

●あの世からの漁夫は、耐久力が半分になった時点であなたから逃げ出す。

●海岸にはさまざまなものが置かれているので、それらを駆使して撃退する必要がある。

●ホテルの一室にある「偶像の写真」を破り捨てた場合は、一旦撃退はできる。

●このルートに入った場合は生還率が極めて低くなると予想される。

■エンディング

A:あの世からの漁夫の像を破壊かつ七鳥生存

(描写例)

あなたはたどり着いた石ノ塔で、像を破壊する。
古びた像は床にたたきつけられると簡単に我て、粉々になってしまう。
すると先ほどまで襲い掛かって来ていた鳥は絶叫し、そのまま身をよじらせながら羽をまき散らし闇夜に溶けてしまった。
その場には静寂のみが残る。

七鳥は、鳥のいたあたりをぼんやりと見つめている。
そして彼はあなたのもとにやってきて
「やっぱり、やっぱり助けてくれた…ありがとう。本当にありがとう」
「こんなところまで連れてきて済まない」
「帰りの交通費も出すし、俺のことを警察に突き出しても構わない」
「それだけのことを俺はしたんだから……」

と、さきほどまで狂気に染まっていた瞳は正常な光を灯しながらあなたに言うだろう。

※七鳥は帰りの交通費をしっかりと支払ってくれる。
また探索者が望むのであれば警察に自主もするだろう。
この後の展開は、P Cの行動によりK Pが適切に描写するのが望ましい。

◆生還報酬：1d6+1

B:あの世からの漁夫の像を破壊かつ七鳥死亡

(描写例)

あなたはたどり着いた石ノ塔で、像を破壊する。
古びた像は床にたたきつけられると簡単に我て、粉々になってしまう。
すると先ほどまで襲い掛かって来ていた鳥は絶叫し、
そのまま身をよじらせながら羽をまき散らし闇夜に溶けてしまった。
その場には静寂のみが残る。
七鳥は、鳥に体を引き裂かれその場に倒れている。
彼の近くには紙が置かれており

「こんなところまで連れ出してすまなかった。
今思うとどうかしていたと思うが、この文章をかいている自分と
君の眼の前に現れる自分はおそらく別人だろうから、
酷いことをしたと今ここで謝っておく。
もしも君が一人で帰るのであれば、トランクの中に交通費は用意してある。
それを使ってくれ。すまなかった。」

つらつらと謝罪の言葉が並べられていた。

※財布もなにもない探索者は七鳥のお金を使うか、
警察に保護してもらって帰宅するかのどちらかになるだろう。
この後の展開は、P Cの行動によりK Pが適切に描写するのが望ましい。

◆生還報酬：1d6

C:観光客に助けてもらう

(描写例)

あなたは観光客に助けを求める。
観光客はあなたの様子を見ればすぐさま警察に連絡し、
あなたは保護され、七鳥は逮捕されるだろう。
最後に見た七鳥は、瞳はどんよりと曇り、無言で警察に連れていかれている姿だった。

ひよんなことではじまった南の島の旅行は終わった。
あなたはほっと胸をなでおろし本土に帰る。
家に帰るそんなあなたの目の前を黒い鳥が横切った気がした。

その影にあなたは息をのむ。

警察に保護された帰りの飛行機に乗る中で、
あなたは今日もきっと悪夢を見るのだと恐怖した。

◆生還報酬：1d3

◆後遺症：夏鳥の影（なつどりのかげ）

あの世からの漁夫の夢を見続ける。1セッションごとに SANC(1/1d3)
消えるのが先か、あなたの正気が失われるかが先だ。

D:あの世からの漁夫の撃退に成功（石ノ塔に行かなかった場合）

（描写例）

あなたはなんとか黒い鳥を撃退した。

短く怒るように鳴いた鳥は、闇にとけ海岸は波を打つ音だけが聞こえる。

七鳥とはいうと病院で手当では必要だろうが、まだ命は尽きていないようだ。

あなたが連絡をするのであれば、事情を知った人々によりあなたは警察に保護され、七鳥も怪我の回復を待って未成年拉致の容疑で逮捕されるだろう。

図らずも巻き込まれたあなたの夏野度は終わった。

帰宅してから数週間後、あなたはいつも通りの生活を送っている。

しかし、ふと見れば視界の端に黒い鳥が横切った気がした。

あの存在は、いまだに自分を狙っているのだ。

今日から自分はまた悪夢を見るのだろう。あなたはぞわりとした悪寒を感じた。

◆生還報酬：1d3

◆後遺症：夏鳥の影（なつどりのかげ）

あの世からの漁夫の夢を見続ける。1セッションごとに SANC(1/1d3)

いつか消えるのが先か、あなたの正気が失われるかが先だ。

E:あの世からの漁夫の撃退に失敗（石ノ塔に行かなかった場合）

（描写例）

するどいくちばしがあなたを突き刺し、鉤爪があなたを掴んで握りつぶす。
口からゴポリと血が出る。体中がミシミシと痛む。
自分はただ普通に生活をしていただけだ。巻き込まれただけだ。
黒い鳥はそのような事情はお構いなしに、あなたを空中に持ち上げ、そして落とす。

砂浜にたたきつけられ、体中の痛みに神経が叫び声をあげている。
そのままあなたの意識は途絶えた。

次の日、砂浜には黒い羽根にまみれた2つの死体が発見された。

◆探索者ロスト

■あとかき

・夏と暴力となんちゃって民話シナリオです。
知らない NPC と一緒に不自由極まりないギスギスした夏旅行をしてほしくて
書きました。これからの夏の季節にどうぞ。
今回はちゃめちゃかっこいいシナリオタイトルの文字を作ってもらえたんですよ
御覧下さい見ろ…！とってもハピネス…！！

シナリオの処理でわからない点があれば(@kore_desu)までどうぞ。

二次配布、自作発言は禁止です。
ネタバレっぽい感想はふせったーをお使いください。
リプレイ等のご自由にどうぞ。

七版改変も自由にどうぞ。

ペンポポ

Twitter: @kore_desu

Pixiv: id=16369409

※このシナリオはクトゥルフ TRPG (角川エンターブレイン刊行)を元になっています。

※本シナリオの内容はフィクションです。
登場する人物、団体、地名は実在している人物、団体、地名とは一切関係ありません。